

日本産酒類の輸出促進については、平成29年3月に改訂された「日本産酒類の輸出促進に向けた課題及び対応方針について」(以下、「現対応方針」という。)に従って各省連携して様々な課題に取り組んできたところである。その効果もあり、日本産酒類の輸出額は6年連続過去最高額となり、日本産酒類の輸出状況は順調に推移しているといえる。

また、本年のラグビーワールドカップ日本開催、来年のオリパラ大会に向けて世界から日本への注目が集まっている状況でもあり、日本産酒類の輸出促進の追い風となっているものといえる。

そのような状況を踏まえ**現対応方針も2020年を一つの目途として作成されている**。そのため、日本産酒類の輸出拡大の動きを2020以降にもつなげていくため、**現対応方針を改定し、日本産酒類のさらなる発展を目指す**。

○改定のスケジュール(イメージ)

時期	会議	主要議題
2019年5月14日	第11回連絡会議	対応方針の改定の検討開始
2019年6月下旬 or2019年8月上旬	改定の検討会 (課長級会議) 1回目	現状の対応方針から課題を抽出
2019年9月下旬	第12回連絡会議	合同会議の議論の報告、ディスカッション
2019年11月～12月	改定の検討会 (課長級会議) 2回目	有識者ヒアリング
2020年2月中目途	改定の検討会 (課長級会議) 3回目	改定案とりまとめ
2020年3月中目途	第13回連絡会議	改定案の報告・決定

基本的な進め方は、業界・有識者からのヒアリングをもとに、現状の課題について対応していくものとしていく。

○改定の進め方

- ①改定の検討会※構成員からのヒアリング
- ②有識者からのヒアリング(課題抽出)
- ③対応方針(案)のまとめ

※改定の検討会：「日本産酒類の輸出促進連絡会議幹事会」と農水省の輸出戦略実行委員会の下にある「酒類部会」と合同で運営することを検討。